

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

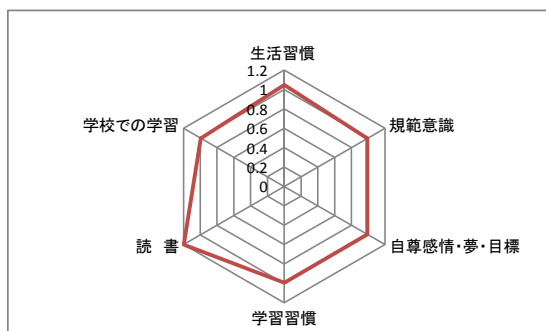
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っており、特に書く力は基礎がきちんとできている。 漢字の書き取り問題にやや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	伝えたいことを明確にするために付け加える言葉を選択する問題は正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を大きく上回っており、読む力、書く力ともに力がついている。 読解力も十分にあるが、自分の考えを文章にすることにやや課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く問題は無解答率が高い。また、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える問題は正答率が低い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を大きく上回っており、全体的に数や数式の計算の正答率が高い。 近似値と誤差についての問題に無解答がやや多く課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	どの領域も全体的によくできており、特に数、負の数の加法の計算の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	測定値における近似値と誤差の問題は、無解答率が全国平均より高い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を大きく上回っており、特に図形の領域問題の正答率が高い。 数学的に説明する記述問題については、正答率、無解答率がともに高く二極化している。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	問題を解決する方法を数学的に説明する記述問題の正答率、無解答率ともに高い。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣において、平日、土日ともに3時間以上取り組んでいる生徒が多いが、30分～1時間以内、全くしない生徒の割合も多い。また、宿題はするが、自分で計画して、自主的な予習・復習ができていない傾向にある。</li> <li>生活習慣の安定が規範意識、学力向上に比例している。</li> <li>読書の時間が全国に比べて大幅に長く、国語力の向上に大いに反映されている。朝読書の設定、学校図書館の開放に</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 漢字ドリルやテスト、漢字コンクールなどを実施し、漢字学習の強化に取り組む。
- 単元別プリントや自主学習ノート等の活用により、個に応じた学習に取り組めるようにする。
- 宿題の提出の徹底や小テストを計画的に実施し、全体的な基礎学力の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の時間(自主学習・宿題)を充実させ、一日のメディアとの接触時間を減らす。(新聞・ニュースを見ることについては推進する)
- 地域の行事に積極的に参加させ、地域の方とのコミュニケーションを深めさせる。